

東京 シンフォニエッタ

第46回定期演奏会

現代の感性

— 邦人作曲家の国際性



Shoichi Yabuta



Tokuhide Niimi



Yasutaki Inamori



Marisol Jiménez

- ◆ マリソル・ヒメネス
XLIII MEMORIAM VIVERE
— 生きた記憶のなかの43 (2015・日本初演)
～第39回入野賞受賞作品～
- ◆ 藪田翔一
Billow (2015・東京初演)
～第70回ジュネーヴ国際音楽コンクール作曲部門優勝作品～
- ◆ 稲森安太己
思惑～大アンサンブルのための (2019・舞台初演)
- ◆ 新実徳英
室内協奏曲I-アクア
(2009年東京シンフォニエッタ委嘱作品・全曲初演)

2019.12.9

[MON] 18:30 開場 19:00 開演

トッパンホール

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 TEL.03-5840-2200

全席自由 一般 4,000円 学生 2,000円

[出演] 指揮: 板倉康明

演奏: 東京シンフォニエッタ

主催: 一般社団法人 東京シンフォニエッタ

助成: 芸術文化振興基金

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

ARTS COUNCIL TOKYO

制作協力: 東京コンサーツ ※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

現代の感性——邦人作曲家の国際性

ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督 板倉 康明

今回は東京シンフォニエッタとして初の試み、スタジオ収録により放送初演がされた作品を舞台初演するという画期的な取り組みです。稲森、新実、ヒメネス各氏による作品はNHK-FM「現代の音楽」で今年6月に既に放送されているものです。本来、ホールでの演奏を想定している作品を、スタジオで、舞台で演奏する事が、まず私たち演奏者にどのような心理的差異をもたらすのかを実際に知ることはとても興味深いことです。その瞬間をぜひ共有して頂ければと思います。また放送をお聴きになった方にも、そして作曲家自身にも、その差はどう聴こえて来るのでしょうか。かつて現代作品では電子音響を用いたものでは無くとも、実演では不可能で録音のみで演奏が成立する作品がありました。スタジオで何回も録り直さなければ楽譜通りにならないという作品です。しかし、演奏技術の進歩、恐らくそのような作品に対する慣れの問題も大きいとは思いますが、近年そのような事は無くなりました。

ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門で優勝した藪田作品は今回、東京初演となります。国内のみで研鑽を積んで海外で評価された藪田氏と東京シンフォニエッタは長いおつき合いです。とここまでお読み頂いて、ヒメネス作品と演奏会のテーマはどう関連するかと思われるかも知れませんが、ヒメネス作品は邦人作曲家によって審査され選ばれる「入野賞」受賞作品です。邦人作曲家からの海外作品へのまなざしを示したものです。今回も多彩な作品をお届け致します。ぜひご来場下さいますようお願い申し上げます。

Music Director
板倉康明Flute
斎藤和志
齋藤光晴
下弘桐子Oboe
辻 功
渡辺康之Clarinet
西澤春代
佐藤和歌子
川越あさみBassoon
多田逸左久
長 哲也
守屋有紀Horn
有馬純晴
中島大之
岸上 穰Trumpet
高橋 敦
坂井俊博Trombone
西岡 基Tuba
渡辺 功Saxophone
小申俊寿Percussion
松倉利之
和田光世
石崎陽子Harp
木村茉莉Piano
藤原亜美Violin
山本千鶴
海和伸子
梅原真希子Viola
百武由紀
吉田 篤
守山ひかるCello
花崎 薫
高麗正史
宇田川元子Contrabass
吉田 秀
那須野直裕Electronics
有馬純寿
<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/>

チケット予約

■ 東京コンサーツ (問合せ先)
03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)
<http://tokyo-concerts.co.jp>

■ トップホールチケットセンター
03-5840-2222 (平日 10:00-18:00)
<http://www.toppanhall.com/>

次回予告

第47 回定期演奏会
「作曲家の横顔」——エリック・モンタルベッティ」

◆エリック・モンタルベッティ (1968~) : 委嘱作品日本初演 ほか

2020年7月9日[THU] 19:00 開演
東京文化会館小ホール

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

マリソル・ヒメネス (1978~)

グアダラハラ (メキシコ) 出身。ミルズ・カレッジを経て、スタンフォード大学でブライアン・ファーニホウに学び博士号取得。音を作る手法、テクノロジーや機械の活用に関心を寄せ、エレクトロニクスやビデオも積極的に採り入れる。弦楽四重奏のための《難解な渴き》(2004) はアルディッティ弦楽四重奏団により初演され「ウルトラシヤル・ベルリン」で再演、2019年にフランス初演された。《XLIII MEMORIAM VIVERE—生きた記憶のなかの43》で第39回入野賞を受賞 (2018)。メキシコ国立芸術家協会会員。ベルリン在住。



藪田翔一 (1983~)

東京音楽大学大学院作曲科修了。第70回ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門優勝。ウィーンコンチェルトハウス100周年作曲賞最優秀作品賞。SORODHA国際作曲コンクール1位、日本音楽コンクール4年連続2位、文化庁長官表彰 (国際芸術部門)、第26回出光音楽賞など入賞歴多数。19年にはNHK交響楽団、いずみシンフォニエッタ大阪等からの委嘱作品が初演され、今最も注目されている作曲家の一人である。



稲森安太己 (1978~)

東京学芸大学およびケルン音楽舞踊大学にて作曲を山内雅弘、ミハエル・バイル、ヨハネス・シエルホルンの各氏に師事。2009年東京学芸大学大学院修了、11年ケルン音楽大学コンツェルトエグザメン課程修了、13年同大学大学院修了。18年ミュンヘン・ピエンナーレにてオペラ『ヴィア・アウス・グラス』が上演される。07年日本音楽コンクール第1位。現在、デトモルト音楽大学およびケルン音楽舞踊大学非常勤講師。



撮影 Heinz Wernecke

新実徳英 (1947~)

東京大学工学部卒業。東京芸術大学作曲科卒業。同大学院修了。1977年ジュネーブ国際バレエ音楽作曲コンクールにてグランプリ並びにジュネーブ市賞を受賞。82年文化庁舞台芸術創作奨励賞並びに特別賞を受賞。84年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。ISCMに入選。2000年第18回中島健蔵音楽賞受賞。03年別宮賞受賞。04年「風神・雷神」のCDが文化庁芸術祭大賞を受賞。05年万博記念オペラ「白鳥」が世界初演され、この公演に佐川吉男音楽賞が授与される。06年初演された「協奏的交響曲〜エランヴィタール〜」が第55回尾高賞を受賞。管弦楽作品の多くは、国内外の主要なオーケストラで演奏され、それぞれ高い評価を得ている。



撮影 近藤篤